

樟の庭

第 232 号

令和元年（2019年）10月28日

大阪市立新北野中学校

KUSUNONIWA KUSUNONIWA KUSUNONIWA KUSUNONIWA KUSUNONIWA



頑張った文化発表会



「文化の秋」を象徴するように、先日25日（金）文化発表会がありました。午前中の展示では、日頃の授業や部活動での、頑張っている様子がよくわかる力作ぞろいでした。午後の舞台発表では、どの演目もしっかりと練習を重ね、その成果を発揮した感動の舞台となりました。これらの頑張りを今後の学校生活に活かしてください。

そんな中、午前中1・2年生は、地域の方に来ていただき、絵本の読み聞かせをしていただきました。そのお話の中に「二番目の悪者」という作品がありました。内容は・・・

ある動物の王国のお話。金色のたてがみを持つ「金ライオン」は野心家で次の国王になりたかった。自分こそが王にふさわしいと思っていた。しかし、街はずれに住む、誠実で心優しい、銀色のたてがみの「銀ライオン」が次の王様候補だという噂を耳にする。そこで金ライオンはありもしない、根も葉もない悪い噂を流す。

実際は、鳥の巣をなおしてあげていたのに、それを壊したという噂。
崖から、落ちそうになった、クマを助けたのに、落とそうとしたという噂。



その話を伝え聞いた国の住民（動物）たちは、はじめは半信半疑でしたが、次々と噂は広まり、最後はそれが「真実」として信じられ、銀ライオンは悪い奴だと決めつけられました。

その後、国王を決める投票では、銀ライオンでなく、金ライオンが国王に選ばれました。権力を手にした金ライオンは、自分だけが裕福な暮らしをし、生活に困っている国民には、見向きもしませんでした。やがて、国は滅んでいきました。そこで国民たちは、気付きました。

「国がこんなふうになったのは誰のせい？」

一見、金ライオンだけが悪いように感じられますが、作品のラストの、野ネズミの言葉に、ハット気付かされます。



「僕は、ただ聞いた噂をみんなに伝えていただけなのに・・・。」



この作品はこの言葉から始まります。

「これが、すべて、作り話と言い切れるだろうか・・・。」

皆さんにも、しっかりと考えてほしいお話でした。（校長 太田忠男）